

2021年 ゴルフ場予算アンケートと 気になる統計

コロナ禍影響も前向き 若者増等の材料増える

回答ゴルフ場平均

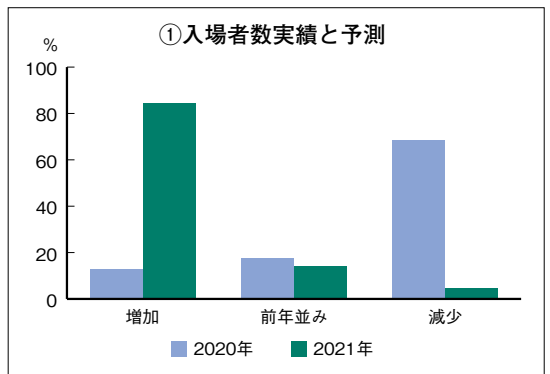
- ・平均ホール数20・3H（前年21・1H）
- ・平均入場者数4万964人（4万3千人）
- ・18H換算3万4136人（3万6682人比6・9%減）

3分の2以上で入場者数減少

本誌では増刊号の『ゴルフ場資材機材年鑑2021』（4月1日発行）にて、2021年の予算アンケートを掲載した。今回は最終集計して増刊号で紹介できなかった内容や各種コメントを取り上げる。アンケートは本誌で把握しているゴルフ場担当者の電子メールアドレス宛に今年2月27日に送信し、Webにて回答する形で3月5日までに60件以上の回答を得られた。

資材機材年鑑でも報じた昨年全般の概況に関する質問ではコロナ禍の影響が色濃く出た。2020年に入場者数が減少したと答えたゴルフ場は68・3%で3分の2以上を数えた。前年並みが17・5%、増加は12・7%であった。前年同時期のアンケートでは半数以上の55・6%が増加と答えていたので一変したのは間違いない。増減の要因としては「コロナ」が87・3%と圧倒的で、「好天」19%、「降雪」9・5%、「豪雨など大雨・台風」6・3%などとなった。

①入場者数実績と予測

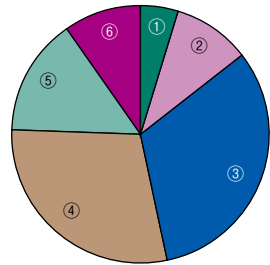


また2021年については、「2019年まで回復」が29・7%ともっとも多く、「前年及び2019年より増加」25・0%と半数以上が2019年並みかそれ以上まで回復すると見ている。これは昨年秋ごろまでは考えられなかったことで、前向きな予想が増えてきたと言える。次に前年後半並みまで回復15・6%、前年の落ち込みの半分以上回復7・8%、回復はせずに前年並みが6・3%あり、4・7%と少数だが連続減かもの予測もあった。前年の落ち込みの半分以上回復を前年並みとしても

入場者予測コメント

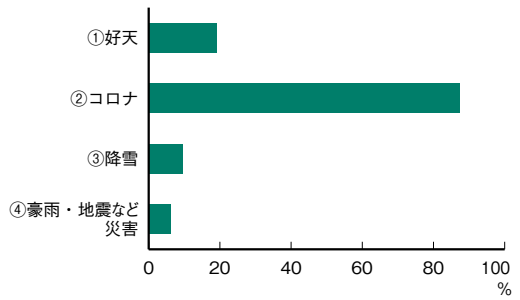
- ・ゴルフ場が一番安心の為
- ・コロナの影響が薄れ例年並みに戻ると予測
- ・コロナの影響も減少し、コロナの影響でゴルフを始める人が増えたから
- ・前年に引き続きお得なプランを出す予定
- ・コロナに慣れてきている
- ・前年をわずかも上回ったので今年は前年並みの予測。
- ・コロナ禍で、来場者が増加している。(海外等旅行に行かない為)
- ・コロナ影響とビジターの値下げ
- ・クラブハウスリニューアルで1、2月が休場の為
- ・ゴルフ場業界が感染予防を徹底している
- ・18H休場の為、別のコースにメンバー来場数増加
- ・2019年はリニューアルのため休業。2020年はコロナ禍のため減少
- ・やはりコロナの影響が続くと思われる
- ・7月以降回復
- ・1、2月出足好調
- ・コロナ禍であるが秋 冬季が前年比アップできていること
- ・アウトドアで、密の少ない娯楽で若者の増加が見られる。
- ・一部三県がメインターゲットの客層なので三県が解除にならないと増える見込みはない
- ・コロナが終息している感があるため
- ・2020年の後半(6月)以降の来場者は増加傾向。その流れは現在も続いているため
- ・平日4部制本格始動 スループレー枠拡大につき
- ・コロナの影響で減少したコンペが若干戻る
- ・1.2月の状況から
- ・コロナウイルスのワクチン等の動向、3密を避けられるスポーツとしての認識、若年層のゴルフへの興味・関心
- ・昨年の落ち込みがひどく、今年はコロナも収束傾向へ向かうと思われる。
- ・10月以降回復しているため
- ・国内マーケットでの増員
- ・WEB予約開放
- ・2019年は天候により来場者が伸び悩んでいたため、天候次第では2019年並みかそれ以上を見込む
- ・コンペ予約は、約2割減。一般会員予約は本日(3/1)から受付開始。一般予約は好調で昨年後半と同様に利用者が見込めそう
- ・シーズン全般は、コロナの影響が少なからずありそうだから
- ・コロナへの対策がされ、ゴルフ場は外で安心されている
- ・隣接市町村でのクラスター発生に伴う自粛傾向と積雪による営業日数減
- ・積雪でオープンが遅れているので何処までか? コロナの影響は不透明
- ・昨年入場者が大幅に減少した要因は新型コロナウイルスによる外出自粛によるもの。アウトドアスポーツのゴルフが見直され、収束状況によるが前年後半並みの利用者は見込める
- ・コロナの影響により
- ・2020年の後半が回復傾向にあったため
- ・オリンピック開催による閉鎖期間があるため
- ・対策がうまくいっていないため
- ・コロナは収束していくと思われる
- ・4月営業開始に向けて予約を受け付けているが2019年並みに推移している。
- ・コロナ禍で屋外のゴルフ需要が高まる傾向が続くと予想
- ・コロナ禍ではあるが、ゴルフは3密回避スポーツとして需要増加見込み
- ・前年はコロナ禍により、5月に大きく落ち込んだが、7月以降逆に加えてきており、天候も以前より良くなってきている
- ・昨年の一回目の緊急事態宣言時ほどの落ち込みは無いと思われるため
- ・昨年4月・5月が新型コロナウイルス緊急事態宣言発出で例年の半分まで落ち込んだ為、今年は例年並みに戻ると予想している
- ・コロナ対策の徹底により感染対策が十分にできているため
- ・補充募集の会員の活動が活発

②18H換算年間利用者数

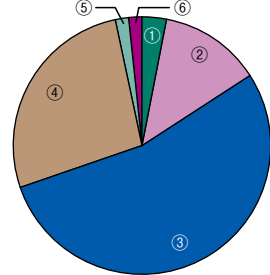


①1.5万人未満 ②1.5~2.5万人 ③2.5~3.5万人
④3.5~4.5万人 ⑤4.5~5.5万人 ⑥5.6万人以上

③利用者数増減理由

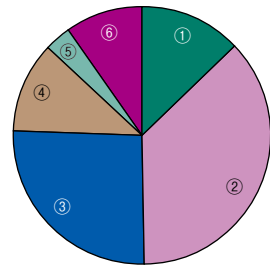


④女性の利用者比率



①5%未満 ②5~10% ③10~15%
④15~20% ⑤20~30% ⑥30%以上

⑤4サンプルの割合



①5%未満 ②5~30% ③30~50%
④50~70% ⑤70~90% ⑥90%以上

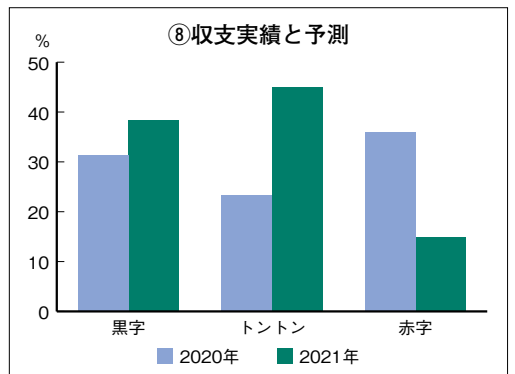
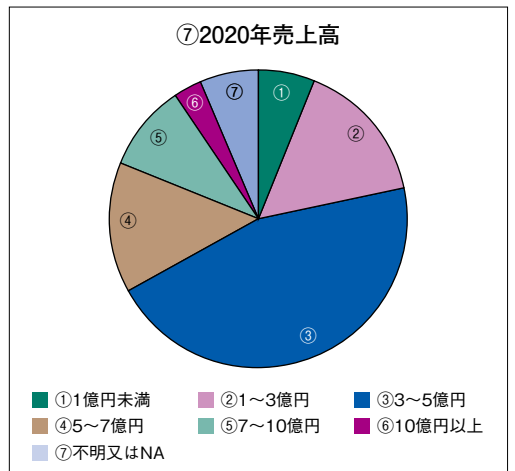
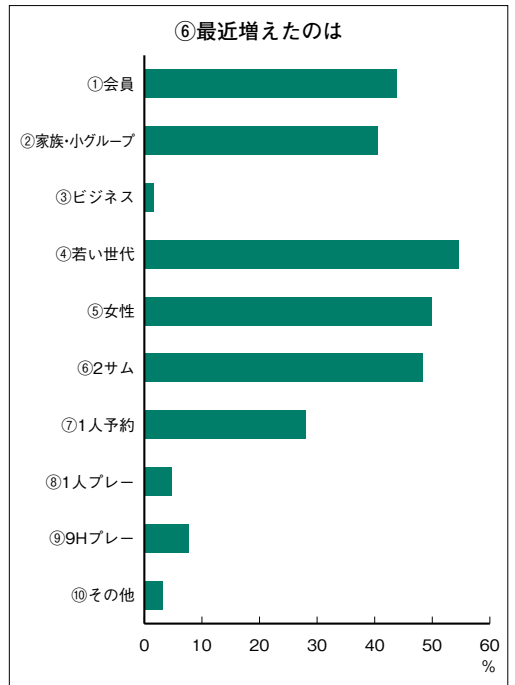
利用者の内訳では、会員の利用

84・2%が回復、増加すると見て

いることになる。

比率が31・5%となり、前年同期の32・0%よりわずかにダウン。会員の平均年齢は62・9歳で前年の64・2歳より若干若返った。女性利用者比率は前年の13・6%から13・9%に増えている。

昨年コロナ下では若者、女性、会員の利用が増えたデータが出ており、最近増えたの質問では多い方から「若い世代」54・7%、女性50%、「2サム」48・4%、「会員」43・8%、「家族・小グループ」40・6%、「1人予約」28・1%となり、「9ホールプレー」7・8%、「1人プレー」4・7%、「ビジネス」の回答は1・6%だった。やはり、コンペの減少を指摘する意見が大半だった。コロナ下で増えていた「スルー



「プレー」は、季節も影響して52・4%が5%未満と答えたようになり通常プレーの形に戻っている。

0%で最も多いが、黒字33・9%、トントン25・4%で減収ながらも黒字を確保したゴルフ場も少なくなかった。

このため2021年収支予測はトントン45・8%、黒字39・0%、赤字は15・3%と回復を見込んでいる。2021年予算は増加が44・1%、前年並み42・4%、減少15・3%と、コロナ禍を経験しても前年調査に続き増える方が目立った。

「当面の課題」の質問では「コース・施設の改修・修繕」が71・9%でトップ、「入場者対策」65・6%を上回った。長年の使用で老朽

2020年の売上規模は「3~5億円」が45・3%と最多で、「1~3億円」15・6%、「5~7億円」14・1%、「7~10億円」9・4%などとなった。

入場者数が減少したことで2020年の売上高は減収が60%を占めた。減収程度は10~20%が32・2%で多く、10%未満16・9%、20~30%減と30%以上3・9%増収と前年並みはともに16・9%だった。ただし収支は赤字が39・

9%、トントン25・4%で減収ながらも黒字を確保したゴルフ場も少なくなかった。

「当面の課題」の質問では「コース・施設の改修・修繕」が71・9%でトップ、「入場者対策」65・6%を上回った。長年の使用で老朽

2020年の売上高は減収が60%を占めた。減収程度は10~20%が32・2%で多く、10%未満16・9%、20~30%減と30%以上3・9%増収と前年並みはともに16・9%だった。ただし収支は赤字が39・

9%、トントン25・4%で減収ながらも黒字を確保したゴルフ場も少なくなかった。

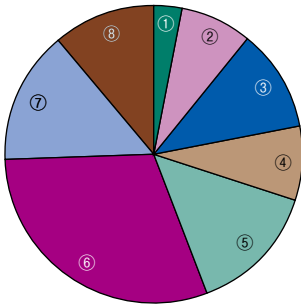
このため2021年収支予測はトントン45・8%、黒字39・0%、赤字は15・3%と回復を見込んでいる。2021年予算は増加が44・1%、前年並み42・4%、減少15・3%と、コロナ禍を経験しても前年調査に続き増える方が目立った。

「当面の課題」の質問では「コース・施設の改修・修繕」が71・9%でトップ、「入場者対策」65・6%を上回った。長年の使用で老朽

設備投資・商品購入 コメント

- ・コンピュータシステムの入れ替えを検討
- ・貯水タンクの改修、消費電力削減のためのLED化と空調システムの改修
- ・カーナビゲーション
- ・労務管理、伝票関係のデジタル化
- ・空調機
- ・セルフオーダーシステム
- ・浴室の新設。乗用カーナビの更新
- ・全自動RW・FWモア
- ・コース柵 電柵設置等
- ・コース機械の充実、カートの購入、コース改修工事
- ・宿泊施設があり、コロナ禍で減少している為、部屋内部のリニューアルを進めている。
- ・スーパーの購入、ハウスの修繕（老朽化の為）
- ・シュミレーターゴルフ
- ・コース関係機械（目砂散布機）クラブハウスジュタン張替え
- ・自動精算機
- ・FW自動散水設備による良好なコンディションの維持。
- ・コース管理機械、コース内安全対策（乗入れプレー安全対策）
- ・ハウス改修3期工事（ロッカー室） 昨年度実施予定を延期
- ・カート路、コーストイレ改修等
- ・クラブハウス改修
- ・イノシシ防除
- ・LED化による電気代節減
- ・レストランオーダーリングシステム、精算機
- ・人件費の削減
- ・コスト削減や省力化できるものがあれば取り入れたいと思う。エコキュート導入から約10年経ち、大きな地下タンクも40年を迎えるが不要と判断し、地上に設置の小さいタンクに入れ替える事で安価に更新が出来る。この様にクラブハウス施設の老朽化に伴い、修繕費が増えている。LED照明への切替も終え、更にコストを下げられるものがあれば導入したいと思っている
- ・レストラン厨房における工事

⑨年間営業日数



■ ① 200日未満 ■ ② 200~250日 ■ ③ 250~300日
 ■ ④ 300~330日 ■ ⑤ 330~350日 ■ ⑥ 351~360日
 ■ ⑦ 361~363日 ■ ⑧ 364~365日

化したり、コロナ対策もあつて施設を改修したい意向が強い。「労務対策」43・8%、「新型コロナウイルス」42・2%、「食堂関係」35・9%、「会員対策」26・6%

営業改善にむけて

- ・コロナ影響でのレストラン稼働の悪化対策人件費の調整
- ・ゴルフ場は立地の状況もありIT化やDXが遅れているように感じる
- ・ゴルフ場利用税の早期撤廃
- ・お客様満足度を上げたい
- ・ゴルフスタイルとオペレーションについての見直し
- ・コース課、キャディ不足等のサステナビリティ検討
- ・今後、環境問題に取り組むゴルフ場か？が問われてくる
- ・人件費の削減を図り、少人数で運営できる体制の構築が近々の課題と考える。少人数により多少のサービス低下もやむを得ないと判断している。

⑩ゴルフ場所在地



■ 1: 北海道 ■ 2: 東北 ■ 3: 関東
 ■ 4: 静甲信越 ■ 5: 中部 (三重含む) ■ 6: 関西
 ■ 7: 中・四国 ■ 8: 九州・沖縄

働き方改革など労務対策や、コロナ禍で売上が落ちた食堂関係などと新型コロナウイルスの課題は同等になっており、ポストコロナを意識しだしている。会員対策が少なくなっているのもメンバーがアクティブになり、ゴルフ場との関係が良好化していることが伺える。

では「営業改善にむけて」何をしようとしているか？これは前記の当面の課題にもつながるもので、「コ

業界統一での取組みと課題

地域的には関東など東日本でコロナ禍の影響がより多かったように、昨年の業績的には西高東低であったようだ。

以上が『ゴルフ場資材機材年鑑2021』でも一部紹介したアンケート結果の概要で、その他、アンケートの回答を見てみよう。

「業界統一の取組み」としては、「ゴルフ場利用税撤廃」が74・6%で一番多く、スポーツ庁やゴルフ団体が長期的な要望に転換しても統一的な要望としては根強い。

ース・ハウス施設の清掃・消毒と美化」が61・3%と最も多く、「コース・ハウス内施設管理の省力化」50・0%、「接客、営業などの社内研修」30・6%、「健康経営など働き方改革」と「廃プラ削減など環境保全の取り組み」は25・8%、「食堂の見直し（テラス活用、お土産・テイクアウト）」24・2%、「DXなどデジタル化とIT研修」22・6%と僅差で続き、「SDGsに基づく行動宣言」14・5%、「ツーリズム含む地域、提携先との関係強化」は11・3%となった。

次に多いのが「初心者・ジュニア育成」54%、接近して「ゴルフマナーの呼びかけ」52・4%、「地域との共生、振興策」41・3%、「ゴルフのイメージアップ」33・3%、「女性ゴルフファー育成」30・2%、「ゴルフのカジュアル化」27・0%、「ゴルフの日」制定などプロモーション」19・0%となった。若者など初心者の参加増加と将来的危険により、業界が取り組むジュニアの育成が上位であるが、同じようにゴルフマナーの呼びかけを挙げているのは、それだけ新しいゴルフファーの参加とマナーの乱れを感じている証拠だ。女性育成やカジュアル化がそれほどではないのは、保守的に今までのスタイルを守りたい勢が多いこととだ。

ゴルフのイメージアップやプロモーションが相対的に低いのは、これまで取組み的にも後回しにしていたことによるだろう。

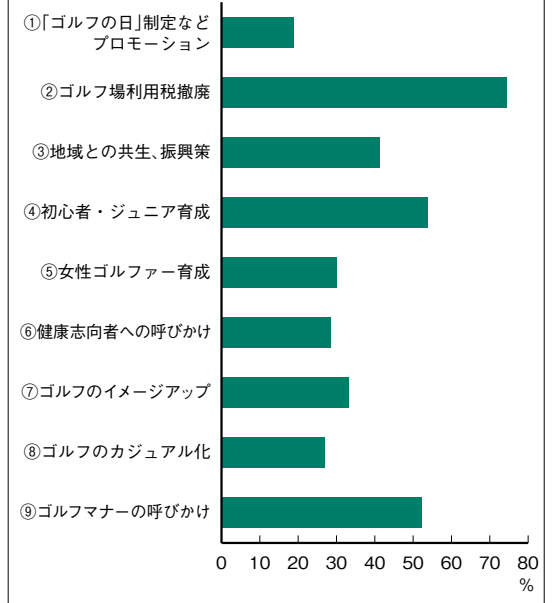
その点、地域との共生、振興策が上位に来るのは営業施策的にも必要と感じられるが、上記の「営業改善にむけて」で「ツーリズム含む地域、提携先との関係強化」は下位にあり、「地域との共生、振

興策」では地域との共生よりも振興を意識した回答であったことがわかった。

通常スタイル以外のイベント企画について尋ねると、関心を示した方は半数に過ぎなく、

選択肢を挙げた中で多かったのは「スクランブルゴルフ」の47・1%で、「ドラコン、ニアピン、ニアターゲット」や「クラブ5本以下などプレー」がともに14・7%、「パッティング、アプローチコンテスト」、「スピードゴルフないし歩き、ジョギングプレー」、「フットゴルフ」、「ソフトゴルフ」、「スナッグゴルフ」も上げたが、いずれも少数しかなかった。アマチュア規定が変わるものの、こうしたイベントは定着するまで時間がかかるようで、その中でスクランブルゴルフはかなり浸透したと言え

①業界統一での取組み



そうだ。

気になる統計

東京五輪が海外客抜きでの開催が決まり、インバウンド期待の観光業界は落胆しているが、首都圏1都3県の緊急事態宣言が解除されるなど、徐々にだが好転する期待は高まっている。

ただ、先ごろ発表されたスポーツ庁の令和2年度「スポーツの実施状況等に関する世論調査」と今年1月の家計調査で気になる兆候があった。

ともに概要は本誌ニュース欄で

紹介しているが、スポーツの実施状況調査ではゴルフは実施率だけでなく、初めてや再開の運動・スポーツでも実施率が下がっている。あれだけ若者が増えたと言われたコロナ下だが、確かに男性の10代と20代では始めた人の比率は大幅に上昇したが、他の世代をカバーするボリュームがなく、女性は60代以外始めた人の比率が下がっている。しかも、テレビやインターネットでゴルフを視聴した人は令和元年より明らかに下がった。シブ子フィーバーで沸いた2019年より、一般のゴルフ熱は下がっている。

一方で、総務省統計局の今年1月の「家計調査」（家計収支編）によると、ゴルフプレー料金の購入頻度と、消費支出は減少したが、ゴルフ用具への支出が4カ月連続して増加している結果が出た。

プレー料金の支出では60代が元気なほか、相変わらず29歳以下が好調。その一方で40代と70歳以上は前年から半減と元気がなかった。

ただし、驚いたのはゴルフ用具への支出だ。用具支出金額で40代が断トツのトップに立ったのだ。昨年2月に30代が記録した月間の

消費金額を大きく上回っており、世代間支出でも常に低迷していた40代が十分に爆買いの形でゴルフの消費に走った。若者のゴルフ利用に刺激されてゴルフ消費が伸びた可能性もありそうだ。

昨年、若者のゴルフ人気を象徴していた30代は昨年2月の用具爆買いの後、5月を除いてゴルフプレーの支出が大幅に増えており、今年は40代もそれに続くのか、非常に注目されるどころ。何より、総人口で今一番多いのは団塊ジュニアを含む40代であり、長らくゴルフ消費が伸び悩んでいたからこそ伸び代がある。

ゴルフに興味を持った方はここ2年で国内人口の2割以上いたのだから、プレーや練習を習慣化して楽しむ熱心なゴルファーが増えれば、2025年問題も大過なく過ごせるかも知れない。いずれにしても60代を中心に健康志向によるゴルフ熱の高まりは確かで、それに続く世代を引き寄せ、引き留める施策が必要となってくるだろう。

まさに降って沸いたようなチャンスであり、追い風を活かさない手はない。